

Global Energy Policy Research

GEPR (グローバルエネルギー・ポリシーリサーチ) は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所 (<http://agorajp.com/>、東京) が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

今週のアップデート = バイオエタノールの可能性 (2016年10月12日)

GEPR編集部 · Wednesday, October 12th, 2016

アゴラ研究所の運営するエネルギーのバーチャルシンクタンク、GEPR (グローバルエネルギー・ポリシーリサーチ) はサイトを更新しました。

今週のアップデート

1) トウモロコシ・エタノール、米国農家が日本に販売を期待

米国の農業探訪の4回目。米国で広がるエタノールについてそのメリットとデメリット、日本への影響をまとめました。米国農業の特長は需要開拓に意欲的であること。日本も参考になります。

2) パリ協定の発効：温暖化問題をビジネスチャンスへ

投稿原稿。NGO350.orgの代表からの寄稿です。GEPRは石炭の利用もあり得る、原子力の正常化をという立場です。しかし別の立場の意見として紹介します。

今週のリンク

1) パリ協定批准「見誤った」官邸主導の盲点

日本経済新聞10月10日記事。手続きが遅れ、昨年結ばれた気候変動をめぐるパリ協定の批准が遅れてしまいました。官邸はこの問題にそれほど意欲的ではありません。

2) 原発再稼働争点、揺れる新潟知事選

朝日新聞10月10日記事。新潟知事選ですが、新人2候補の争いで、東電の柏崎刈羽原発の稼働が焦点になってしまいました。過度な政治の関与による混乱が起こらないことを望みます。

3) 高速炉開発会議第1回会合

経産省10月7日公開資料。経産省が高速炉開発会議を開催しました。もんじゅのあり方を含め、今後原子力の高速炉をどのようにするか検討します。ただ、先行きは不透明なま

まです。もんじゅは事実上の廃炉、実験施設になりそうです。

This entry was posted on Wednesday, October 12th, 2016 at 4:24 pm and is filed under [アップデート](#)

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.